

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	10
1. 理念の共有		1
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		4
4. 理念を実践するための体制		3
5. 人材の育成と支援		1
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		5
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		7
1. その人らしい暮らしの支援		5
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		23

事業所番号	1473000753
法人名	株式会社コスモス
事業所名	グループホーム樺
訪問調査日	令和7年3月11日
評価確定日	令和7年5月8日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について
外部評価は23項目です。
「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法
[取り組みの事実]
ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[次ステップに向けて期待したい内容]
次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
家 族 = 家族に限定しています。
運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

令和6年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1473000758	事業の開始年月日	平成16年5月1日	
		指定年月日		
法人名	株式会社 コスモス			
事業所名	グループホーム 樺			
所在地	(242-0024) 神奈川県大和市福田1842番地			
サービス種別 定員等	☐ 小規模多機能型居宅介護		登録定員	名
			通い定員	名
			宿泊定員	名
	☒ 認知症対応型共同生活介護		定員 計	18 名
		ユニット数	2 ユニット	
自己評価作成日	令和7年3月3日	評価結果 市町村受理日		

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

全職員のモットーは「優しい声掛けと優しい対応」です。新型コロナウイルスの影響も少なくなり少しずつではありますが、地域とのかかわりも増やして行こうとしております。行事の方も少しずつ増やすなど取り組んでおります。面会に関しては平日休日祝日問わず、15時から18時まで、一組一時間の面会時間を設けています。それ以外の時間の面会に関しては玄関にて10分から15分程度の面会とさせていただいております。外出に関しては制限は設けておりません。新型コロナウイルスの影響も一段落したことから、行事、外出支援の回数を増やしていくとともに、運営推進会議において地域との連携回復に努めてまいります。
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒231-0023 横浜市中区山下町74-1 大和地所ビル9F		
訪問調査日	令和7年3月11日	評価機関 評価決定日	令和7年5月8日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

●この事業所は、株式会社コスモスの経営です。同法人は、神奈川県内でグループホーム2ヶ所、サービス付き高齢者向け住宅を運営しています。「楓シンフォニー」は、令和5年度をもって閉鎖しています。この「グループホーム 樺」は小田急江ノ島線「高座渋谷駅」から徒歩10分程のところにあり、事業所名の由来になっている大きな樺の木もすぐ近くに立っています。また、近くには引地川が流れ、桜の木がある小学校もあり、利用者の散歩コースになっています。川の上流には、5kmに亘って千本の桜が兩岸に咲き誇る名所「引地川千本桜」があり、例年はさくら祭りが開催され、利用者も参加して春を満喫しています。 ●事業所理念は「利用者の立場に立ったサービスの提供」など3項目を開設当初に作成し、玄関に掲示しています。認知症ケアのポイントでのプラスの関わりを理解して、今年度も引き続き「グループホーム職員の役割」を全職員に書いて貰っています。介護職としての理想や、認知症ケアに対する思いを挙げてもらい、利用者へのより良いケアに繋がるようにしています。 ●今年度の運営推進会議は、奇数月に年6回、対面で開催しています。民生委員・大和市介護保険課職員・地域包括支援センター職員・利用者などの参加で開催しています。事業所からは利用者の現状報告・職員状況・行事報告・事故報告・ヒヤリハットなどの報告を行い、参加の方々からは意見や、提案をいただきサービスの向上に活かしています。
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	12 ～ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	17 ～ 23
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	グループホーム 樺
ユニット名	1階ハルニレ

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
		○	3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1, ほぼ全ての職員が
		○	2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
		○	2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に、三つの理念を掲げ共有している。また、プラスの関りとマイナスの関り現場に入る前に読み上げ、プラスの関りに徹するよう努めている。	事業所理念の「利用者の立場に立ったサービスの提供」など3項目を開設当初に作成し、玄関に掲示しています。認知症ケアのポイントでのプラスの関わりを理解して、今年度も引き続き「グループホーム職員の役割」を全職員に書いて貰っています。介護職としての理想や、認知症ケアに対しての思いを挙げてもらい、利用者へのより良いケアにつながるようにはしています。	今後の継続	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの影響もかなり収まり、対面での運営推進会議も再開している。感染対策を怠らず、徐々に外出の機会を増やす。現状は、まだ日常的に交流で来ている状況になく、感染の危惧的な様相は残っている。	自治会に加入し、回覧板で地域の情報を把握しています。昨年まではコロナ感染の影響で地域行事が中止になっていましたが、今年度再開の盆踊りに参加を予定していましたが、事業所内でのコロナ感染が発症したため、参加を見送っています。地域の方々が参加する運営推進会議は、今年度は対面で開催し交流をしています。	今後の継続	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	過去に、小学校に出向く等で認知症高齢者について講義をさせてもらったこともあるが、現在はできていない。生活保護の方で認知症を患ってしまった方でも受け入れているという面においては、地域貢献できていると思う。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	取り組んでいる。運営推進会議において、様々な立場の方の意見を聴き、実践できるように心がけている。話したくないような内容でも、可能な限り議題にあげ、解決にあたっての判断が間違った判断にならないように努めている。	今年度の運営推進会議は、奇数月に年6回対面で開催しています。民生委員・大和市介護保険課職員・地域包括支援センター職員・利用者・家族は家族会会長ですが現在未定のため欠席しています。事業所から利用者の現状・職員状況・行事・事故・ヒヤリハットなどの報告を行い、参加の方々からは意見や、提案をいただきサービスの向上に活かしています。	今後の継続	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議において連携するよう心掛けています。利用者様の近況報告及び、身体拘束防止委員会も同日に行っている。また、わからないことはその都度聞くようにしている。	大和市介護保険課職員と地域包括支援センター職員が、交互に運営推進会議に参加しており、その時点での事業所の現状など伝えています。市からは集団指導講習会の案内があり参加しています。生活保護受給者の受け入れを行っており、大和市生活介護課担当者とは、電話やメールで連絡を取り定期的な訪問もあります。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	行っている。一時性、非代替性、切迫性の要件をすべて満たしていないと身体拘束はできない事を常日頃職員に説明している。玄関は夜間帯以外施錠は行っていない。中扉はダイヤル式の施錠となっている。	身体拘束適正化委員会を運営推進会議に合わせて開催しています。事業所の現状を事例を挙げて報告し、参加の方々と意見交換をしています。今後各ユニットの職員1名を委員に選出して参加を予定しています。身体拘束は一時性、非代替性、切迫性の要件をすべて満たしていないと身体拘束はできない事を常日頃から職員に説明し、マニュアルを基に研修を年4回実施しています。	今後の継続
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	申し送り時、身体的虐待、心理的虐待、ネグレクト、経済的虐待、性的虐待の具体例について設問している。また、虐待は加害者の虐待の認識の有無に関係なく対象になりうる事を説明している。	虐待防止委員会を運営推進会議に合わせて開催しています。事業所の現状など事例を挙げて報告し、参加の方々と意見交換をしています。今後各ユニットの職員1名を委員に選出して参加を予定しています。申し送りやミーティングで事例検討を行い、言葉の問題など注意を払っています。今後は自己点検シートを利用して、全職員の確認を予定しています。	今後の継続
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について学ぶ機会は、外部研修などで設けている。しかしながら、実際には成年後見人がある利用者様が入居される時などにしか説明できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時、不安や疑問点を毎回尋ねている。また、契約書の読み合わせも契約時に毎回行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置して対応している。投函されることはほとんどないが、意見や要望は常に聞く姿勢をもって対応している。	契約時には、重要事項説明書に記載の苦情相談窓口について家族に説明をしています。コロナ禍以降は家族会の開催は行えず、現在は家族会会長も空席になっています。家族へは毎月、近況報告・行事内容など文章で伝えています。家族からの要望などは、面会時や電話でいただき申し送りや業務日誌で職員と情報を共有し、可能な範囲で運営に反映させています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する職員意見は内容によって反映が難しい場合もあり、提案を聞く機会を全体で設けることは行っていない。しかし、個々に提案があった場合は内容によるが、反映する場合もある。	毎日の申し送りは、各ユニット毎に行い職員の意見・提案を聴いています。ユニットミーティングは2～3ヶ月に1回実施しています。2階のユニットでは、グループLINEを使用して職員の情報共有を行っています。毎月末には役員会議があり利用者の状況、職員の状況など報告しています。今期より法人代表者が変更になっています。管理者と職員との個別面談を今後実施する予定です。	今後の継続
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月末の役員会議にて利用者の状況、職員の状況を報告している。勤務年数、勤務日数、勤務態度などを考慮し、パート職員であっても賞与に反映する形になっている。しかし、更なる条件の整備は必要と考えている。	勤務シフトの作成で職員には有休を取れるよう配慮し、日常業務では休憩時間をしっかり取れるように休憩場所を確保するなど、意欲を持って働ける環境整備に努めています。パート職員でも勤務年数、勤務日数、勤務態度などを考慮し、賞与に反映するようにしています。処遇改善加算についても、積極的に取り組んでいくことが必要と考えています。	今後の継続
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今期から法人代表者が変ったが、今まで通り連絡を密に行い職員の力量や利用者の状況は報告している。法人内での研修は行っているが、社外研修は今後拡充していきたいと考えている。	内部研修は、管理者が講師を務め、年間で計画を立てて毎月、認知症ケア・プライバシー・個人情報・身体拘束・虐待の防止などから項目を決めて実施しています。外部研修の案内はメールで案内が届いた際に職員へ周知し、必要なものには積極的に参加できるなど今後拡充していきたいと考えています。初任者研修や実務者研修など必要な職員には受講を促し費用面での支援をしています。	今後の継続
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	コロナの影響により縮小、自粛したままとなっている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	努めている。特に最初は環境の変化による認知症状の悪化を防ぐためにも十分に注意している。ご本人に聞けない場合は、ご家族にヒアリングを行い安心できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	多くの場合、ご本によりもご家族からの申し込みとなることから、ご家族が困っていること、ご本人の希望や要望にも十分に配慮しながら、施設にできることできないことを説明し、理解を得られるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	認知症の進行具合、ご本人の性格、ご家族の状況等、支援していく上での必要な情報を収集し、どういうサービスがご本人やご家族に有益なのかを職員とともに情報共有し、対応するよう心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	認知症状の見極めと心身の状態や、ご本人の性格によって「暮らしを共にする者同士の関係」築ける場合と築けない場合があるが、極力、利用者と職員という立場の違いが表立って出すぎず、かといって馴れ合いの関係にならないよう指導注意している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	努めている。お手紙は毎月一か月の様子を簡単にまとめ報告し、ケアプランの説明、通院の必要性があったときは、必ず連絡している。基本的には通院はご家族にお任せする方針だが、多くの場合通院支援の要望があったときは駐車場代以外無償で通院支援している。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスの影響も落ち着き、なじみの人の来訪や外出もご家族の了承があれば可としている。	入居前面談にて本人を取り巻く人間関係や、馴染みの場所などに関する情報を聴き取り、入居によって本人がこれまで大切にしてきた人間関係や、馴染みの場所との関係が途切れないよう支援しています。家族の面会は、2階の事務所か玄関先で実施しています。家族と一緒に外出してお墓参りや食事をしてくださる方の支援をしています。事業所の携帯電話に掛かってきた家族からの電話を利用者に取り次ぐなどの支援も行っています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症の症状に合わせ、関わりあえるよう支援している。また、一階と二階で認知症の進行具合による区分けはしておらず、空きが出た部屋に順次新入居者を案内している。どうしても合わない場合は、ユニット間での移動もご本人、ご家族の了解のもと行っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	努めている。契約終了したのち経過フォローが必要な場合は稀だが、信頼の継続ができるよう努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	努めている。新型コロナウイルスの影響も完全ではないものの収まり、ご家族の面会には比較的柔軟に対応し、外出においても制限はしていない。意思疎通の難しい利用者様に関しても極力本人本位で支援するよう心がけている。	入居契約時には、自宅や施設に伺うか、事業所に来ていただくかして本人・家族・在宅時介護支援専門員から、今までの生活歴・既往歴・趣味・嗜好・今後の暮らし方の希望などについて聴き取りアセスメントシートを作成しています。現在は意思疎通の難しい利用者は少なく、意思表示の出来る利用者が殆どで日常の会話などで思いや、意向の把握が出来ます。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にこれまでの暮らしはもとより、幼少期などのエピソードも聞くようにしている。また、使い慣れた箸や食器類、家具等があれば持参していただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めている。お手伝いができる方にはお願いし、じっとしていることが好きな方には無理強いせず、力量に応じた対応に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎週、計画作成者が介護職員に対しヒアリングしている。また、介護計画期間の満了前や介護計画の変更が必要になった場合にご家族に連絡を取り、介護計画作成に活かしている。	介護計画は基本的に3ヶ月毎に更新をしています。利用者の入退院など特変があった場合は、その都度の見直しや変更の介護計画を作成しています。計画作成担当者は週2回の勤務があり、出勤日には居室担当者や、当日勤務の職員らで業務日誌やケース記録を参考にしてケアカンファレンスを実施して、介護計画のモニタリングを行っています。更新間近な家族へは、電話で意見・要望を聴いています。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録を記入し、気になる点や情報共有の必要性がある事案に関しては、業務日誌の申し送り欄に記し、見直しに活かせるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多機能化という面では、小規模多機能ほどのサービスはできていないが、入居時の体験入居や荷物の搬入時の手伝いや運搬は必要性がある場合や依頼を受けた時は行うようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源としては千本桜や高座渋谷駅周辺施設、若宮神社、引地川などがある。寒暖の影響が少ない春秋には外出支援を行っている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	支援している。ほぼ毎週往診がある。一か月約4週を一階と二階交互に往診がある為、適切な医療や薬の調整は小まめできる状態にある。提携の薬局も即日薬を届けていただける。	入居契約時に事業所の協力医療機関について説明し、本人と家族の希望を聴き主治医を決めています。現在全員の方が協力医療機関の大和アーバンクリニックの訪問診療を受診しています。1階と2階に交互に往診がある為、ほぼ毎週の往診があります。歯科衛生士が週に1回全員の口腔ケアを行い、治療が必要な場合には、その都度往診があります。医療連携体制で職員の看護師は、毎週1回健康管理や職員の相談に対応し、24時間の連絡体制も確保しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	支援している。毎週月曜日と金曜日に、看護師の情報や気づきを得られている。受診に関しては管理者が通院支援を行う場合が多い。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	行っている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	取り組んでいる。契約締結時に大まかな説明を行っている。また、状態変化した際に必要性に応じた説明をするよう取り組んでいる。	入居契約時に「重度化した場合における対応にかかる指針」の書類を基に説明し、下記の余白欄に延命治療の有無について、記入していただいています。状態が変化した場合には、医師からの説明や家族、事業所で話し合い、事業所で出来ること、出来ないことを説明し、今後の方針を決めていただいています。看取り介護を行う場合には、医師・看護師・職員が共にチームとして支援に取り組んでいます。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員各自が応急手当の講習を受講できてはいない。しかし、急変の可能性がある場合や、対応の仕方については急変の可能性が低い場合でも行っている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、地震においては避難方法、避難訓練を定期的には行っていない。また、地域との協力関係もコロナの影響で希薄になってしまっている様相がある。今後、運営推進会議の議題にあげ再構築していかなければならない。	脱衣所からの火災発生を想定して、避難・誘導訓練を実施しています。地域との協力関係もコロナの影響で希薄になってしまい、今後の運営推進会議で議題にあげるなど再構築の予定です。BCPへの対応は、マニュアルなどの書類関係や、研修・訓練などは現在検討中です。備蓄品としては、米・水・レトルト食品等の用意と発電機・カセットコンロなどの用意があります。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	対応している。声掛けや言葉遣いにはプラスの関りマイナスの関りを職員に周知し、マイナスの関りをしないように指導している。	事業所の理念で「可能な限り自立した安心と尊厳のある生活が営まれるよう支援」を挙げ、ケアポイントでもプラスの関わり方の説明をして、人格の尊重や、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をミーティングなどで説明し、指導しています。不適切な言動が見受けられた場合には、管理者が直接注意や指導をしています。	今後の継続	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	働きかけている。業務の都合や職員の都合が優先しないようにご利用様が自己決定できるように支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	新型コロナウイルスの影響で希望に沿った支援は難しい状況が続いていたが、今後希望に添える支援をできるよう方向転換していく。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	現在、オシャレや身だしなみを希望する利用者様は少ないが、働きかけて行きたいと考えている。			
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	行っている。特に盛り付けや片付けは積極的に参加してくださっている。複雑な作業等は職員が行っている。	朝と昼食はメニュー付き食材、夕食は調理済み食材を業者から購入しています。調理は職員が行い、出来る方には、野菜の下拵え・食器洗い・食器拭きなどを手伝っていただいています。クリスマスや正月などの行事食は、業者の注文を止めて利用者の希望を聴き、買い物や手作りで提供しています。誕生日にはケーキを買い皆さんでお祝いしています。コロナ禍で自粛していましたが、今後は庭でのバーベキューなど行っていきたくと考えています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分補給量や、食事摂取量は細かく管理把握している。現在は塩分制限が必要な方は不在だが軽い塩分制限程度なら対応可能。カリウム制限などは応相談。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛けや介助を行っている。また、毎週月曜日に提携歯科の衛生士による口腔ケア口腔体操を行っている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	オムツを使用している場合でも、トイレでの排泄を促している。自立とまではいかないが、トイレで排泄できる意味を大事にして支援している。	利用者一人ひとりの排泄状況を排泄チェック表に付け、排泄パターンを把握しています。入居時はオムツを使用していた方が、排泄状況を確認して誘導する事で、リハビリパンツに改善出来ています。ADLの低下と共に、トイレでの排泄は難しくなっていますが、時間や様子を見て声掛け誘導し、オムツを使用している方でも、トイレでの排泄につなげられるよう支援しています。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防に関しては、飲食物の工夫、体操、歩行、下剤の服用及び調整で対応している。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	職員や施設側の都合により曜日が決まってしまう。毎週日曜日が自由入浴日としていたが定着しなかった。希望や要望があった場合は臨機応変に対応していく方向となった。	基本的には、週2回の入浴を午前中に支援しています。希望や要望があった場合には、臨機応変に対応しています。入浴時は体調や気分の確認も行い衣服の脱衣後には全身の皮膚チェックを行い、入浴後は水分の補給と保湿クリームなど塗布しています。車椅子の方は、シャワーチェアで入浴していただいています。季節のゆず湯・菖蒲湯も取り入れて行っています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	支援している。昼食後は昼夜逆転気味ではない方においてはお昼寝の時間を設けている。医師に依頼し睡眠導入剤の処方に頼る場合もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	提携薬局と服薬管理を行っている。薬局側で一包化や日付、朝昼晩の区分けを行い、服薬チェック表は施設側、薬の作用副作用情報は、ユニットごとにひとまとめにして管理している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の楽しみごととしてのレクリエーションにつなげたいができていない。嗜好品や楽しみごと（カラオケ等）気分転換できる支援は行っている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの影響が一段落したことから、戸外に外出制限は設けていない。ご家族の希望があればいつでも外出可能となっている。	気候や天気を考慮しながら、日常的に近隣の小学校までのコースを散歩しています。ベランダで洗濯物を扱ったり駐車場等で外気浴をする方もいます。小学校の正門には大きな桜の木があり、その時期の散歩は利用者の楽しみになっています。ドライブでは引地川の千本桜祭りや、若宮神社へ初詣でに行っています。家族と一緒に外出する方の支援をしています。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持は原則行っていない。（防犯、短期記憶障害の症状の原因排除の為）使える支援は行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、手紙ともに行っているが積極的に行ってはいない。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾りつけはレクリエーション活動の一環として行っている。また空調、居住スペースの整理整頓、清掃は小まめに行っている。	リビングは広くて明るく、スッキリと整頓され、テーブル周りには床暖房を設備しており、加湿空気清浄機等で環境にも配慮しています。壁面等の飾りつけは、利用者と職員で貼り絵や、折り紙、塗り絵など、行事や季節感を取り入れた作品を作り飾っています。リビングの畳コーナーには、大きなテレビを置き皆さんで観ています。掃除は職員が主に掃除機やモップで定期的に行っています。エアコン掃除は毎年業者が行っていますが、今年度は老朽化したため交換しています。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	基本的に本人の意思を尊重しており、フロアで食事が基本だが、居室で食事したい場合はそのように応じている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にある程度心地よく過ごせるように工夫している。その後も心身の変化に応じて本人が過ごしやすいうようにお手伝いまたは支援している。	各居室の、エアコン・洗面台・防災カーテン・クローゼット・介護ベッドが設備してあります。入口の表札は、夫々違った高山植物の花の写真と名前が書いてあります。入居時にはテレビや、冷蔵庫・仏壇・整理ダンス・本などを持ち込まれ、本人が過ごしやすいうように支援しています。居室内の整理・整頓は職員が手伝い、リネン交換は週1回行い、汚れた場合はその都度交換しています。季節の衣替えは、職員が手伝っています。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	前頭側頭型認知症などの訴えが多い認知症状の利用者の場合は自立した支援への病状による拒否がある為、難しい場合があるがそれ以外の場合は工夫して安全かつ自立できるように支援している。		

目 標 達 成 計 画

事業所

グループホーム 櫻
1階ハルニレ

作成日

〔目標達成計画〕

優先 順位	項目 番号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

事業所名	グループホーム 樺
ユニット名	2階ニリンソウ

Ⅴ アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1, ほぼ全ての利用者の
		○	2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1, 毎日ある
		○	2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ全ての家族と
		○	2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
		○	3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
		○	2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に、三つの理念を掲げ共有している。また、プラスの関りとマイナスの関り現場に入る前に読み上げ、プラスの関りに徹するよう努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの影響もかなり収まり、対面での運営推進会議も再開している。感染対策を怠らず、徐々に外出の機会を増やす。現状は、まだ日常的に交流で来ている状況になく、感染の危惧的な様相は残っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	過去に、小学校に出向く等で認知症高齢者について講義をさせてもらったこともあるが、現在はできていない。生活保護の方で認知症を患ってしまった方でも受け入れているという面においては、地域貢献できていると思う。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	取り組んでいる。運営推進会議において、様々な立場の方の意見を聴き、実践できるように心がけている。話したくないような内容でも、可能な限り議題にあげ、解決にあたっての判断が間違った判断にならないように努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議において連携するよう心掛けている。利用者様の近況報告及び、身体拘束防止委員会も同日に行っている。また、わからないことはその都度聞くようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	行っている。一時性、非代替性、切迫性の要件をすべて満たしていないと身体拘束はできない事を常日頃職員に説明している。玄関は夜間帯以外施錠は行っていない。中扉はダイヤル式の施錠となっている。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	申し送り時、身体的虐待、心理的虐待、ネグレクト、経済的虐待、性的虐待の具体例について設問している。また、虐待は加害者の虐待の認識の有無に関係なく対象になりうる事を説明している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について学ぶ機会は、外部研修などで設けている。しかしながら、実際には成年後見人がいる利用者様が入居される時などにしか説明できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時、不安や疑問点を毎回尋ねている。また、契約書の読み合わせも契約時に毎回行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置して対応している。投函されることはほとんどないが、意見や要望は常に聞く姿勢をもって対応している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する職員意見は内容によって反映がが難しい場合もあり、提案を聞く機会を全体で設けることは行っていない。しかし、個々に提案があった場合は内容によるが、反映する場合もある。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月末の役員会議にて利用者の状況、職員の状況を報告している。勤務年数、勤務日数、勤務態度などを考慮し、パート職員であっても賞与に反映する形になっている。しかし、更なる条件の整備は必要と考えている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今期から法人代表者が変ったが、今まで通り連絡を密に行い職員の力量や利用者の状況は報告している。法人内での研修は行っているが、社外研修は今後拡充していきたいと考えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	コロナの影響により縮小、自粛したままとなっている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	努めている。特に最初は環境の変化による認知症状の悪化を防ぐためにも十分に注意している。ご本人に聞けない場合は、ご家族にヒアリングを行い安心できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	多くの場合、ご本によりもご家族からの申し込みとなることから、ご家族が困っていること、ご本人の希望や要望にも十分に配慮しながら、施設にできることできないことを説明し、理解を得られるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	認知症の進行具合、ご本人の性格、ご家族の状況等、支援していく上での必要な情報を収集し、どういうサービスがご本人やご家族に有益なのかを職員とともに情報共有し、対応するよう心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	認知症状の見極めと心身の状態や、ご本人の性格によって「暮らしを共にする者同士の関係」築ける場合と築けない場合があるが、極力、利用者と職員という立場の違いが表立って出すぎず、かといって馴れ合いの関係にならないよう指導注意している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	努めている。お手紙は毎月一か月様子を簡単にまとめ報告し、ケアプランの説明、通院の必要性があったときは、必ず連絡している。基本的には通院はご家族にお任せする方針だが、多くの場合通院支援の要望があったときは駐車場代以外無償で通院支援している。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスの影響も落ち着き、なじみの人の来訪や外出もご家族の了承があれば可としている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症の症状に合わせ、関わりあえるよう支援している。また、一階と二階で認知症の進行具合による区分けはしておらず、空きが出た部屋に順次新入居者を案内している。どうしても合わない場合は、ユニット間での移動もご本人、ご家族の了解のもと行っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	努めている。契約終了したのち経過フォローが必要な場合は稀だが、信頼の継続ができるよう努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	努めている。新型コロナウイルスの影響も完全ではないものの収まり、ご家族の面会には比較的柔軟に対応し、外出においても制限はしていない。意思疎通の難しい利用者様に関しても極力本人本位で支援するよう心がけている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にこれまでの暮らしはもとより、幼少期などのエピソードも聞くようにしている。また、使い慣れた箸や食器類、家具等があれば持参していただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めている。お手伝いができる方にはお願いし、じっとしていることが好きな方には無理強いはせず、力量に応じた対応に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎週、計画作成者が介護職員に対しヒアリングしている。また、介護計画期間の満了前や介護計画の変更が必要になった場合にご家族に連絡を取り、介護計画作成に活かしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録を記入し、気になる点や情報共有の必要性がある事案に関しては、業務日誌の申し送り欄に記し、見直しに活かせるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多機能化という面では、小規模多機能ほどのサービスはできていないが、入居時の体験入居や荷物の搬入時の手伝いや運搬は必要性がある場合や依頼を受けた時は行うようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源としては千本桜や高座渋谷駅周辺施設、若宮神社、引地川などがある。寒暖の影響が少ない春秋には外出支援を行っている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	支援している。ほぼ毎週往診がある。一か月約4週を一階と二階交互に往診がある為、適切な医療や薬の調整は小まめできる状態にある。提携の薬局も即日薬を届けていただける。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	支援している。毎週月曜日と金曜日に、看護師の情報や気づきを得られている。受診に関しては管理者が通院支援を行う場合が多い。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	行っている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	取り組んでいる。契約締結時に大まかな説明を行っている。また、状態変化した際に必要性に応じた説明をするよう取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員各自が応急手当の講習を受講できてはいない。しかし、急変の可能性がある場合や、対応の仕方については急変の可能性が低い場合でも行っている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、地震においては避難方法、避難訓練を定期的には行っていない。また、地域との協力関係もコロナの影響で希薄になってしまっている様相がある。今後、運営推進会議の議題にあげ再構築していかなければならない。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	対応している。声掛けや言葉遣いにはプラスの関りマイナスの関りを職員に周知し、マイナスの関りをしないように指導している。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	働きかけている。業務の都合や職員の都合が優先しないようにご利用様が自己決定できるように支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	新型コロナウイルスの影響で希望に沿った支援は難しい状況が続いていたが、今後希望に添える支援をできるよう方向転換していく。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	現在、オシャレや身だしなみを希望する利用者様は少ないが、働きかけて行きたいと考えている。			
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行っている。特に盛り付けや片付けは積極的に参加してくださっている。複雑な作業等は職員が行っている。			

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分補給量や、食事摂取量は細かく管理把握している。現在は塩分制限が必要な方は不在だが軽い塩分制限程度なら対応可能。カリウム制限などは応相談。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛けや介助を行っている。また、毎週月曜日に提携歯科の衛生士による口腔ケア口腔体操を行っている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	オムツを使用している場合でも、トイレでの排泄を促している。自立とまではいかないが、トイレで排泄できる意味を大事にして支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防に関しては、飲食物の工夫、体操、歩行、下剤の服用及び調整で対応している。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	職員や施設側の都合により曜日が決まってしまうている。毎週日曜日が自由入浴日としていたが定着しなかった。希望や要望があった場合は臨機応変に対応していく方向となった。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	支援している。昼食後は昼夜逆転気味ではない方においてはお昼寝の時間を設けている。医師に依頼し睡眠導入剤の処方に頼る場合もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	提携薬局と服薬管理を行っている。薬局側で一包化や日付、朝昼晩の区分けを行い、服薬チェック表は施設側、薬の作用副作用情報は、ユニットごとにひとまとめにして管理している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の楽しみごととしてのレクリエーションにつなげたいができていない。嗜好品や楽しみごと（カラオケ等）気分転換できる支援は行っている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの影響が一段落したことから、戸外に外出制限は設けていない。ご家族の希望があればいつでも外出可能となっている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持は原則行っていない。（防犯、短期記憶障害の症状の原因排除の為）使える支援は行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、手紙ともに行っているが積極的に行ってはいない。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾りつけはレクリエーション活動の一環として行っている。また空調、居住スペースの整理整頓、清掃は小まめに行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	基本的に本人の意思を尊重しており、フロアで食事が基本だが、居室で食事したい場合はそのように応じている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にある程度心地よく過ごせるように工夫している。その後も心身の変化に応じて本人が過ごしやすいようにお手伝いまたは支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	前頭側頭型認知症などの訴えが多い認知症状の利用者の場合は自立した支援への病状による拒否がある為、難しい場合があるがそれ以外の場合は工夫して安全かつ自立できるように支援している。		

目 標 達 成 計 画

事業所

グループホーム櫛
2階ニリンソウ

作成日

〔目標達成計画〕

優 先 順 位	項 目 番 号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。